

令和元年度 第5回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

【開催日時】 令和2年3月25日（水） 18：30～19：20

【開催場所】 昭島市役所3階庁議室

【出席者】

- 1 委員：亀卦川会長、臼井委員、大嶽委員、堺委員、田中委員、名取委員、
二ノ宮リム委員、藤原委員、山本委員
- 2 事務局：池谷環境部長、吉野環境課長、小林係長（計画推進係）、光畑係長
（環境保全係）、小沢係長（水と緑の係）、渡邊主任、井上係長（職員課）
- 3 コンサルタント会社：倉地、前田

【欠席者】

委員：長瀬副会長、内田委員、椎名委員

【議事要旨】

- 1 開 会
- 2 議 題
中間まとめ（案）について【資料1、2、3、4】
- 3 報告
(1) 昭島市の水施策について【資料5】
(2) 事業者意見交換会の中止について【資料6】
(3) 令和元年度昭島環境未来会議の開催延期について【資料7】
(4) 令和元年度 市内クリーン運動実績【資料8】
(5) 令和元年度 あきしま喫煙マナーアップキャンペーン実績【資料9】
(6) 平成30年度 苦情件数について【資料10-①】
令和元年度 苦情件数について【資料10-②】
(7) 令和元年度 犬のしつけ方教室実績【資料11】
(8) 令和元年度 花の応援事業（花苗配布）実績【資料12】
(9) 令和元年度 奥多摩・昭島市民の森事業実績【資料13】
(10) 令和元年度 ウッドチップ配布事業実績【資料14】
(11) 令和2年度 主な環境課の事業一覧（予定）【資料15】
(12) 第12回あきしま環境緑花フェスティバルの中止について【資料16】
- 4 その他
次回の審議会日程について
- 5 閉 会

【配布資料】

- 資料1 中間まとめ（たたき台）
資料2 分野別の環境の現状・課題

- 資料 3 新施策体系（イメージ）
- 資料 4 参考：現行計画の施策体系に沿った課題の確認
- 資料 5 昭島市の水施策について（平成 30 年度実績）
- 資料 6 事業者意見交換会でのヒアリング内容について
- 資料 7 令和元年度昭島環境未来会議の開催延期について
- 資料 8 令和元年度 市内クリーン運動実施報告
- 資料 9 令和元年度あきしま喫煙マナーアップキャンペーン実施報告書
- 資料 10-① 平成 30 年度苦情件数
- 資料 10-② 令和元年度苦情件数（令和 2 年 2 月末現在）
- 資料 11 「令和元年度 犬のしつけ方教室」実施報告
- 資料 12 令和元年度花の応援事業（花苗配布）について
- 資料 13 令和元年度奥多摩・昭島市民の森事業について
- 資料 14 令和元年度ウッドチップ配布事業について
- 資料 15 令和 2 年度 主な環境課の事業一覧（予定）
- 資料 16 第 12 回あきしま環境緑花フェスティバルの開催中止について

【発言要旨】

- 1 開会
- 2 議題

中間まとめ（案）について

中間まとめのたたき台について、事務局からの説明が行われた。

（資料 1、2、3、4 吉野課長による説明）

亀卦川会長： 資料 1 では、目次の 1～5 は、これまでの審議会で出てきた内容である。新しく提示されたのは、13 頁からの内容である。重要なポイントは、新しい環境基本計画の目標や施策体系を考えていく視点として、16 頁の「計画改定の視点」が示されていることである。それに基づいて、資料 3 の「新施策体系（イメージ）」が提示された。皆さんより、ご意見・ご質問をお寄せいただきたい。

藤原委員： 資料 1 の 7 頁「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～」で、「東京で活動する多様な主体が…」という記述があるが、「主体」の意味がよくわからない。

吉野課長： いろいろな立場の人が理解し行動するという意味と捉えられる。

名取委員： 「緑施策の新展開」は、東京都が策定した計画で、計画期間が令和 2 年度までとなっている。このため、現在、東京都の自然環境保全審議会で次の生物多様性の地域戦略の検討が行われている。令和 2 年度に改定作業が進み、令和 3 年度に公表される見通しである。本計画には間に合わないかもしれないが、検討結果が公表されているので、取り入れてもらいたい。

吉野課長： 今後、新しい計画も含め、どのような視点にするのかを考える。また、本計画は 5 年後に見直しをする予定であり、後期 5 年分の施策の中には、反映させていけると思う。

- 名取委員： 現在、愛知目標の見直しが行われており、新たな目標となるポスト愛知目標については、2020 年度中に中国で議論が行われる予定である。動向としては触れておくべきと思う。
- 吉野課長： 新たな情報を入手し、間に合う範囲で反映させていきたいと思う。
- 二ノ宮リム委員： 13～14 頁の「昭島市の環境の魅力」「昭島市が直面する環境リスク」は、市民意見交換会で出された意見を中心にまとめたとのことだが、どのようなプロセスを経たのか。
- 吉野課長： 市民意見交換会を開催し、グループワーク形式で、環境分野ごとに昭島市の強み・弱みを検討していただいた。その結果を基に文書化した形である。今後、書き込んでいくための資料として考えている。自然環境、生活環境、地球環境の各グループで検討されたが、それぞれのグループで様々な議論が行われたことから、この資料では総合的にまとめたものを掲載している。
- 二ノ宮リム委員： 例えば環境の魅力だと自然環境グループから出てきたものが①で、といった組み立て方なのか。それとも全体を見て、再構成したものなのか。
- 吉野課長： 地球環境グループからも「水と緑が多い」といったように、各グループから同じような内容が出ている。それらをまとめたもので、どこがどの意見とはしていない。
- 二ノ宮リム委員： 14 頁の記述は、順序としてわかりにくい。①は世界の全体的な話で、②にそれに対する緩和と適応の話があり、③で少しそこから離れて昭島市の話であり、④でまた気候変動の話に戻るもので、構成として分かりにくい気がした。
- 吉野課長： 地球環境グループから出たものが中心となって、環境リスクとして書かれたものであるが、今後、整理して記載する。
- 名取委員： 14 頁で、③が水と緑、生態系の話で、④が生物多様性のことが書かれているが、内容が重複し違いがわかりにくい。特に④の二つ目以降の、街路樹や樹林の倒木、崖線などの維持管理の話は、生物多様性より、むしろ水と緑に関わってくるのではないかと。一方で③の特定外来生物については、生物多様性の内容だと思う。区分けが分かりにくく、難しさを感じたと思った。
- 吉野課長： 地球環境の視点で出てきた意見とバラバラになっている感じがあるので、見出しも含めて整理する。
- 名取委員： 「生物多様性」という言葉自体がふんわりしており、さらに分かりにくさがある。
- 吉野課長： 気候変動によって生物多様性に影響が出ることと、昭島市における生物多様性の危機と、悪影響も 2 種類あり、わかりにくくなっている。
- 大嶽委員： 資料 3「施策体系（イメージ）」で、個別目標 3－2 として「低炭素社会を構築する」とあるが、国では「脱炭素」と言っている。あえて昭島市は「低炭素」を使っているのか。
- 吉野課長： この資料では、現行計画にならい「低炭素社会」という言葉を使っている。今後、検討していくこととなる。
- 池谷部長： これからの検討にはなるが、「脱炭素」となっていくだろう。
- 大嶽委員： 資料 3 の個別目標 3－4 で、施策の基本的方向で「3 R の推進」を挙げているが、国は特に 2 R を打ち出している。リサイクルは、世界的には「循環」という意味とは違った捉え方がなされている。2 R に対する意識について、

次期計画で、市としての考えを示す必要があるのではないか。ごみ処理基本計画と連携していく必要があるのではないかという意見である。

吉野課長： 環境基本計画はごみ処理基本計画の上位計画となるので、整合性を取りながら検討したい。

池谷部長： これは今後変わっていくものとお考えいただきたい。

大嶽委員： 資料1の16頁に関連して、他の自治体では、実施している事業をSDGsと紐づけしアイコンを表示しているが、SDGsの本質は行動を見える化すること、バックキャストで考えていくこと、そして未来の昭島をどう創造していくかが大事であると思う。その3点を書き込んだ方がよいと思う。

吉野課長： この資料は中間まとめだが、次期環境基本計画では十分に書き込んでいくことになると思う。SDGsと紐づけして、SDGsを認識できるようにすることは市民にとっても、職員にとっても大事なことである。施策に対する考え方を示していきたい。

大嶽委員： 変革、変容が大事だと思う。色々な自治体を見ると、そこが残念な部分。2030年に向けて事業を実施する際の意識を持ってもらいたい。

13頁に「深層地下水100%の水」という記述がある。昭島市の水道水の水源は深層地下水で、地下水調査も行っている。一方、その記述の後半では、浅層地下水、負圧地下水のことが書かれている。それぞれ保全の仕方が異なることもあり、意識して整理しておく必要がある。深層地下水と浅層地下水の違い、それに対する取組の違いを書き分けてもらいたい。水道部がやっている調査結果を基に検討するなど、ウォータープロジェクトの取組についても生かして記述するとよいと思った。

資料2の3頁を見ていると、生活環境の課題として、空き家管理等の対策について検討する必要があると書かれている。2021年度からの総合基本計画が出来た後、その次の年から第4次住宅マスタープランも改定される予定である。その際には、環境基本計画との連携を図った住宅マスタープランとなるとよいと思う。また、環境基本計画で挙げた課題について、仮に環境基本計画で解決できなかったとしても、上位計画や関連計画において、その課題を解決するような方向となるよう連携を図ってほしい。

吉野課長： 上位計画である総合基本計画は、環境基本計画と擦り合わせをしながら策定を進めている最中である。都市計画マスタープランも同時期に改定が進むので、整合を図る形をとっている。それ以降に策定する計画についても、次期環境基本計画の内容に沿った形での書き込みとなると認識している。それぞれの検討委員会には、環境課長が入るようになっているので、調整が可能と考えている。

大嶽委員： 令和3年になったら、第4次住宅マスタープランの計画の時期に入るので、是非、連携してほしい。

吉野課長： 水については、浅層地下水や水循環も含めて書き込んでいきたい。

名取委員： 資料3の施策体系（イメージ）と、資料1の16頁の「計画改定の視点」との関係はどうなるのか。各視点が対応しているのか、そうでもなく全体に対して貫くような視点として挙げられているのか。

- 吉野課長： 16 頁は、今後改定をしていく上での視点について整理しているが、資料 3 については、細かい施策を検討していく中で変えていくかもしれない。中間まとめを基本に、施策体系や施策内容については、次回以降の会議で検討し、変わっていくと認識していただきたい。
- 名取委員： 計画改定の視点として整理しているものなので、各視点が施策体系のどこに入るか、というよりも全体としてどう扱うかを考える、と理解すればよい。
- 吉野課長： そのとおりである。
- 名取委員： 資料 3 の 3－3 の「気候変動適応」は、「3. 地球環境」がよいのか。「2. 生活環境」の方が実はあうような気がする。
- 吉野課長： ここについては、もっと戦略的に進めるのであれば、別立てで位置付ける考え方もある。気候変動の緩和策・適応策を別の章立てにしていける方が、よりアピールが強いのではないかと、という考えもあるので、引き続き検討していきたい。
- 藤原委員： 資料 2 にあるとおり、立川基地跡地にオオタカの保護区域が設定されている。立川基地跡地の開発が始まった当時、オオタカは絶滅危惧種Ⅱ類のランクに分類されていたが、現在は数が増えたということで、準絶滅危惧種とランクが下がっている。資料 4 には、オオタカの保護区域について適切な維持管理が必要だと書いてある。これはランクが下がったとしても当初の考え方を維持していく考えなのか。
- 吉野課長： 基地跡地に保護区域があり、保護していくと認識している。ランクが下がったとしても、そんなに多くなったわけでもない。昭和の森の北側にもオオタカが営巣しているが、昭島市としては貴重な自然として残していかなければならないと思う。
- 大嶽委員： 資料 4 「参考：現行計画の施策体系に沿った課題の確認」の分野別課題で、「市内に今でも続けられているワサビ栽培を守るために」という記述があるが、個人のワサビ田について具体的に書いてある。厳しい状況でなんとかしなければならないと思うものの、ワサビ栽培を守るために地下水の涵養が必要とか、浅層地下水のことで宅地の開発との連携、上流段丘部分の開発との関連など、どこまで市が言えるのか、という課題を踏まえ、もう少し書き方を工夫するとよいと思った。ここの家というのが分かってしまう。
- 池谷部長： ワサビ田は象徴として捉える書き方が必要かもしれない。
- 大嶽委員： 家主さんは、みんなに守ってもらいたいとおっしゃっていた。書き方を工夫してもらいたい。
- 吉野課長： これは作業部会で出された意見であり、市民の意見が出ていて、そのことを知っている者が発言された内容である。また、宅地開発の件では、指導要綱を作れば地下浸透ができるだろう、という職員からの意見が挙がった。これらの課題を基に、施策をまとめていきたいと考えている。
- 名取委員： 資料 1 の中間まとめは、パブリックコメントにかけるのか。
- 吉野課長： 中間まとめについてパブコメはしない。中間まとめを基に検討を進め、施策を盛り込んだ素案を作ってからパブコメをする。

- 名取委員： 見やすさや表現をどうするのか、と気になった。計画の位置づけは、相関図があるとよい。世界・国の動向のところも、SDGs も含め図を入れていただくとうよい。公表する資料ならば、そのようにまとめるとよいと思った。
- 吉野課長： これは現段階では外向けの資料ではなく、次のステップに向けた資料という位置づけである。
- 名取委員： 資料2の4頁の課題で、「②気候変動が酷くなることを想定し、内水はん濫や洪水の発生リスク上昇に備えるために」から、その後ろの「住民等の自助・共助の重要性の理解をより一層促進していく必要がある」のつながりが分かりにくいと指摘した。②の前半は、①の文頭に移動させた方がより分かりやすい。そのためにハード面の対策があり、自助共助がある、となる。
- 吉野課長： つながりがよくない部分があり、検討する。
- 名取委員： ①と②の文章のバランスを考慮する必要があるかもしれないが、検討してもらいたい。
- 二ノ宮委員： 16頁のSDGsの記述について、「『誰一人取り残さない』ということが大事なこと」、と本審議会でも申し上げてきたが、その前提として社会を変えていく目標という姿勢を打ち出す必要があると思う。社会・経済・環境の同時解決はそうだが、昭島市としての持続可能な地域づくりのビジョンを持ち、そこに向けてあらゆるものを見直し、再構築していくということを強調してもらいたい。
- 吉野課長： SDGsは大事な書き込みなので、表現を検討してまいりたい。
- 大嶽委員： 次期計画の施策体系は、これから足していくということは分かった。1月25日の市民意見交換会の際は、環境活動をなさっている方が参加するのも重要で、若手職員が入って話すことも大事なことであった。ただ、計画を作って終わりではなく、その先が大事だと思う。市民が多く集まる機会に、環境基本計画について説明する。例えば、5年後の見直しの際には、あきしま会議のような場で、少しでもよいので関連する話をして、関連する方々から情報を聞くことができないか。今までのやり方ではなく、横断的に取り組むことができるようにしておけば、環境課の職員が変わっても続いていくようになると思う。
- 池谷部長： どこまでやるかは意識しているが、やれる機会をとらえて意見を聞くようにする。
- 吉野課長： 本日、欠席されている椎名委員からメールがあった。委員からは、「緑や水に関する部分等で市民協働の考え方を取り入れて、具体的な仕掛け等を明記する必要があると考えます。」また、「緑や水の部分で生物多様性の具体的な展開を考えるべきだと思います。」というご意見をいただいた。この意見についても、あわせて記録させていただく。
- 亀卦川会長： 5月に予定されている環境審議会で、特に資料3の施策体系についてブラッシュアップされた資料が提出されるということなので、引き続きご意見をもらいたい。

3 報告

亀卦川会長： 報告事項は、資料5～16までであるが、今回は資料配布のみ。意見や質問があればお願いしたい。

吉野課長： 何かあれば、後日ご連絡いただいてもよいので、よろしくお願いしたい。

4 その他

次回の審議会日程について

吉野課長： 次回の環境審議会の日程は、5月後半を予定している。日程調整が決まり次第、各委員にご連絡する。

吉野課長： この4月の人事異動で、環境課から区画整理課に異動することになった。次期環境課長は本日参加した井上となるので、よろしくお願いしたい。

5 閉会